

格差の死角

社会

先行く国の実

番外編

当に豊かなのか。

「米国人はカネの量で

で、長い休暇を取り、地

球環境を大切に持続

の自由を大切にし政府の

介入を嫌うが、貧しい未

婚女性が産んだ子供が死

んでも政府は助けられないよ

うな社会になった」

市場主義は自己責

任で支えられている。

「大切なのはさまざま

な社会モデルの長所と問

題点を認識することだ。

をうまく機能させていく

ことも学ぶべきだ」

順調な経済成長を続け
も中間層が豊かな社会だ
る米国社会で「格差」が
広がると、今や貧しい人が
成功するチャンスはほと
んどなくなつた」

「市場主義の行き過ぎ」
権の経済政策のせいだ。
「流れはレーガン政権
時に始まり、その後、民
主党政権も含め、自由放
任の市場主義モデルの政
策が続いた。好調な経済
は市場主義の政策でもた
げられたのは確かだが、
「いい教育を受け、勤
勉に働けば、人生で成功
できる。私自身、この
「アメリカンドリーム」
を信じて育つた。一九六
〇年代、米国は世界で最

「生活の質低下」
米国人はそれで本

市場主義行き過ぎた

文明評論家
ジェレミー・リフキン氏



ジェレミー・リフキン氏 米国を代表
する文明評論家。地球温暖化防止財団代
表。カーター政権時代、経済、未来科学
計画の政策ブレーンを務めた。ペンシル
ベニア大、タフツ大大学院修了。著書に
「エントロピーの法則」「水素エコノミ
ー」「ヨーロッパ・ドリーム」など。
米コロラド州生まれ。60歳。

リスクに挑戦する気構え
を次世代に教えていく一
方で、経済成長の恩恵を
広く公平に配当し、社会
をうまく機能させていく
ことも学ぶべきだ」

◆繁栄過程教訓に

日本は米国型モデ
ルを志向し、構造改革を
進めてきた。

「米国経済の繁栄は、
米国人が稼ぐ以上に消費
してきたことにある。そ
の結果、米国の貯蓄率は
マイナスになり、双子の
赤字は膨らんだ。市場主
義を追求するあまり、貧
富の差は広がり、自殺者
や殺人が増えた。米国型
モデルを志向するのはい
いだらう。だが、その前
に、米国の景気拡大の過
程で何が起きたかをしっ
かりとみるべきだ」